



# 那須与一伝承館通信〈第22回〉

## ○那須資晴願文写

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から、那須資晴願文写を紹介いたします。

本品は、慶長八年（一六〇三）卯月二十八日、那須資晴（一五五七〜六一〇）が烏山（現在の那須烏山市城山）への帰城が叶った際には宮原八幡宮を筑紫山に勧請し、烏居を新造することを約した願文の写しです。

資晴は天正十八年（一五九〇）の小田原攻めに参陣せず、豊臣秀吉から烏山城と領地を没収されました。その後、資晴の長子資景が、那須郡内に五千石の領地を得ましたが、烏山には帰れませんでした。

慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原の戦いでは、資晴・資景父子は徳川家康に従い、福原氏・大田原氏・大関氏などの「那須衆」とともに、上杉景勝軍の南下を防ぎました。この手柄により、資景は一萬石の大名に取り立てられ、同七年には千石を増加されました。しかし資晴の悲願である烏山への帰城（烏山江本意）は叶わず、資晴・資景父子が烏山の地を踏むことはありませんでした。

延宝九年（一六八八）に那須資弥（一六二八〜一六七）が烏山城主三萬石の大

名として烏山入りを果たしました。資晴がこの地を去ってから、この間実に九十一年の歳月が流れていました。

現在、本品を展示しております。ぜひ一度、資晴の思いが込められた書状をご覧ください。

## ○那須資晴願文写

宮原八幡大菩薩

御立願之状

一、烏山江本意於有之者、御殿筑紫山江被爲引、新宿江烏山お立可申事、

一、御神領之儀、幡田之替可申事、付禰宜光明寺屋敷可被下也、

一、楼門・廻廊立可申事、

慶長八年癸卯月廿八日  
藤原資晴（花押）



那須資晴願文写  
(那須家所蔵・当館寄託)

## ■問い合わせ

那須与一伝承館

TEL (20) 0220

# 彫刻

## 市内で作られた作品とその作者

# 周遊 45

このコーナーは、「那須野が国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。



この作品は大田原図書館の正面入り口前に設置してある作品です。一度、大きな丸太を等間隔に薄切りにして、外側と内側の両方の形を崩さないように切り出し、再度元の形に重ねた作品です。

「この世の全ては永劫回帰の輪の中にあり、絶え間なく形を変えてゆく。それゆえ事の始まりと終わりを知ることはで

### An Experimental Attempt Between Inside and Outside

(内側と外側の間、ある経験主義的試み)

イ・スイホン 韓国 2004年

きない」。制作者は荘子の言葉を引用して自分の作品の本質を表現しようと試みました。「私の作品において、それが自然に生まれたものか又、人工的に生み出されたものかは重要ではない。私の作品が視覚化されるその始まりは、積み重なる思考の層の表出である。」

本作品は2体1組の作品です。制作者の言葉からは、どちらかを作るためにどちらかが生まれたのでしょうか、どちらを最初に作ろうとしたのかは誰にもわからない、といったようなことが読み取れます。ただ、目に



イ・スイホン 氏

見える形で完成した作品は、彼が今まで経験してきた全てが関わっているのでしょう。

作者はイ・スイホン氏。弘益大学大学院を修了後、ニューヨークのプラット大学大学院を修了。

### 設置場所案内図(★印)



## ■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718